

大阪 保険医新聞

大阪府歯科保険医協会 敬
 大 阪 府 浪 速 区 幸 町 1-2-33
 大 電 話 (06) 6568-7731 (代 表)
 http://osk-net.org/
 ● 定 価 年 間 10,000 円 月 1,000 円
 ● 1977 年 5 月 23 日 第 三 種 郵 便 物 認 可

7/5
 2011 年 第 1079 号
 (毎月 5、15、25 日 発 行)



認知症の臨床症状について語る森啓氏
 = 6月19日、M&Dホール

日常診 過去最多の293人

認知症テーマに歯科・医科で交流

協会は、大阪府保険医協会・保険医協同組合と共催で、「第5回日常診療経験交流会」を6月19日、M&Dホールと保険医会館で開き、過去最多の293人が参加した。メインテーマは「防げる、治せる、認知症」で、歯科協会・協同組合40周年・医科協会50周年の記念事業として企画。参加者は分科会や基調講演などを通じて、医科・歯科連携や地域医療の在り方を交流した。

震災・原発企画も好評

開会にあたって小澤力 お互いの協会の先生を招いた講習会が開かれるようになった。この機会に

連携をさらに深めてもらいたい」とあいさつした。基調講演では、日本認知症学会理事長・森啓氏が認知症の発症メカニズムや臨床症状、脳画像所見などについて解説。認知症研究の最新情報を紹介



「連携を深めてもらいたい」とあいさつする小澤力氏

介するともに、今後の認知症治療の展望を語った。シンポジウムでは、歯科医師の村内光一氏(尼崎市開業)や内科医、ケアマネジャー、患者団体副代表の4人が、それぞれ

らは、「日本弁護士連合会の『集団フッ素洗口・塗布の中止を求める意見書』を検証する」(堺市・山上紘志氏)、「予防歯科チームの崩壊から再生へーインバースイションをめざして」(吹田市・福原稔氏)、「義歯に名入れをしよう」(東大阪市・西川真二氏)、「カゼ及びインフルエンザに対する口腔ケアからの予防提言」(東成区・土井英暉氏)、「東日本大震災ー歯科支援の報告と課題」(生野区・戸井逸美氏)の5演題の発表があった。ランチョンセミナー「福島第一原発事故から考える」では、元京都大学原子炉実験所教員の岩本智之氏が講演し、「安全」や「安い」などの原発の神話は、今回の事故



テレビ朝日取材に訪れたキャラバン行動=6月28日、茨木市内

日、茨木市でスタートした。会場には40人を超える住民が詰めかけ、国保料の引き下げや健診の無料化などを訴えた。同市は、一般会計も

自治体キャラバン始まる 命守る行政に転換を住民訴え

茨木市

大阪社保協 協会が常任幹事を務める大阪社会保険推進協議会が毎年、社会保障の拡

で完全に打ち破られた。「隠さない、ウソをつかない、過小評価しない」の三つの姿勢で事故の拡大防止に努め、国を挙げて原動力に頼らないエネルギー (関連2面)

4割が保険収入3千万円未満

「まじめにやるほど苦しい」

協会政策部は、2年に一度の会員意見調査を今年2月に実施し、報告書をまとめた。調査は、医療制度や臨床、経営などさまざまな分野について、会員の意見を集約、要望に沿った協会活動を通じて「頼りになる協会」の指針を得るために実施している。開業医会員3525人を対象に2割を無作為抽出し、郵送で依頼した。実施期間は2011年2月15日〜2月28日までの14日間、回答率40.9%。調査報告の概要を3回に分けて掲載する。

06改定から改善なし

保険収入について、年間700億円もの歯科医療費を削った06改定の影響を調べた前回調査と今

今回の特徴は①06年改定のダメージから全く立ち直っていない②患者の減少と中断の増加③文書及び電子レセプト請求とそれに付随する明細書発行の義務化への反対の大きき一だ。

回の結果を比較した(表)。「2千万円未満」の区分は、07年度保険収入(08年意見調査)で22.5%、09年度保険収入(今回調査)で21.5%、と1割減っているものの、「3千万円」の区分では、07年度が16.5%、09年度が19.4%、と逆に2.9割増えている。保険収入3千万円までで約4割の歯科医が入っており、06改定のダメージから回復して

(表)「保険収入はいくらでしたか」

区分	①今回(09年)	②前回(07年)	①-②
2000万円未満	21.5%	22.5%	▲1.0%
~3000万円	19.4%	16.5%	2.9%
~4000万円	15.6%	22.9%	▲7.3%
~5000万円	17.3%	16.5%	0.8%
~6000万円	10.0%	7.6%	2.4%
~7000万円	4.2%	3.4%	0.8%
~8000万円	3.5%	3.0%	0.5%
~9000万円	2.1%	3.0%	▲0.9%
~1億円	0.7%	0.8%	▲0.1%
1億円超	2.8%	1.7%	1.1%
無回答	3.1%	2.1%	1.0%

いない状況が伺える。会員の声では、「歯科医療をまじめにやればやるほど収入が減少することとは何か矛盾を感じません」(50代)、「望むこ

とは、ほんとうに患者さんにとって良い治療を、時間をかけてきちっとできるように、見合った点数が評価されることである(60代)。「診療処置にかかる手間、労力、時間に見合った点数体系にしてほしい」(50代)などがあった。

同時に窓口負担引き下げや金バラ高騰による逆ザヤ解消を求める声が大きい。協会は、6月から「歯科保険適用の拡大」「窓口負担引き下げ」を求め署名を開始、診療報酬改善と同時にこれらの問題でも国会に要請する。

歯界

「他の医療機関との差別化」を推奨する医療経営「ンサルタントが零細歯科医院をターゲットに営業活動を強化している。」

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)